

たまがわの風

平成24年4月2日
大阪府立たまがわ高等支援学校
校長室発
NO. 9

校長室からの情報発信を始めるにあたり、いろいろとネーミングを考えていましたが、校歌の2番の一節「♪たまがわの風にのせて伝えよう♪」から引用し「たまがわの風」としました。

平成24年度 学校経営計画

1 めざす学校像

- ☆知的障がいのある生徒が就労を通じた社会的自立を目指すチャレンジを支援する学校
- ☆個別の適性を正確に把握し、より適切で有効な支援を創造し進化する学校

たまがわ高等支援学校マネジメント3つの柱

○社会的責任（存在価値）

- ・学校は個人や社会に必要とされ存在し、個人や社会のニーズに応えるために存在する。

○マーケティング（顧客志向）

- ・2つの顧客（生徒と企業）のニーズを的確に把握し、効果的なマッチングをおこなう。

○イノベーション（継続的な改善・改革）

- ・時代とともに早いサイクルで変化する社会において、多様な生徒の適性と企業が求めているものを常に把握し、素早く柔軟に支援体制を進化させることができるシステム。

2 中期的目標

1. たまがわ高等支援学校の存在価値とその使命意識の浸透

- (1)たまがわ高等支援学校の専門性の確立
支援教育の視点と職業教育のノウハウを融合させたキャリア教育の確立。（組織・チームとしての専門性）
- (2)たまがわ高等支援学校の使命
顧客（生徒と企業）のニーズを的確に把握し、適切なマッチングをおこなう。
- (3)たまがわ高等支援学校の社会的存在価値
本校の取り組み、実践が全ての障がいのある生徒のチャレンジを支援することにつながる。それが、インクルーシブ社会を作る一役を担うこととなる。

2. より適切で効果的なマッチングを基本とした指導体制の確立＜顧客の創造＞

- (1)生徒の特性の把握を軸（個別の教育支援計画・個別の指導計画の充実と活用）として、個別の課題を引き出し、適性を広げ、伸ばすことによりキャリアアップを目指す。
- (2)制度の変化や時代の変化を敏感にとらえ、企業のニーズに応える人材を育成し、より適切で効果的なマッチングを行う。
- (3)双方（生徒のニーズと企業のニーズ）の満足感を醸成することにより、定着率を上げるとともに、実習先、雇用先の新規開拓の広がりにつなげる。
- (4)たまがわ本校と4校の共生推進教室との進路指導の連携体制を構築する。

3. 時代とともに変化する生徒と企業のニーズに反応し柔軟に進化する集団

- (1)本校が展開する教育（知的障がいのある生徒が就労を通じた社会的自立を目指す）の

- プロ集団として、社会の状況を把握し、常に最新の情報とニーズに対応できる機動力のある集団を目指す。
- (2)開校以来構築してきた第1次システムを再検証し、5年先を見据えた第2次システムに機能アップさせる。
 - (3)引き続き、卒業生の80%以上が就労できる体制を常にイノベーションを繰り返しながら機能させる。
 - (4)進化に対応できる若手人材の育成を図る。

平成24年度重点事業

1. 学校運営組織の見直し

- ①地域支援部と研究調査部の業務の精査を行い整理をおこなう
 - ・ともなって本年度当初より、当面の間<PTA・たまがわ会>の担当を教頭と首席が担うこととする。
 - ②年度内の総務部の立ち上げ
 - ・これまで首席（マンパワー）に頼ってきた業務を組織として担えるようにするために総務部を新設する。
- ◎前期中に各分掌の業務精査・整理を終え、後期には試行を開始し平成25年度当初より正式に改編する。

2. 3年生の学級編成を学科混合とする<モデル事業>

- ①より多くの条件を学級編成に取り入れるため学科混合のクラス編成をモデル的に行う。
- ②学級経営・学年運営を進める中で、そのメリット・デメリットを今後の学校経営に反映させる。

3. 6期生修学旅行の2年生での実施<モデル事業>

- ①長引き経済不況等を鑑みて、3年生では進路指導により重点を置くという観点からモデル的に6期生は2年生で修学旅行を実施する。
- ②今後の「たまがわの教育」にとっての貴重な経験となるモデル事業として取り組む。

4. イノベーション委員会の継続設置

- ①平成23年度試行的に設置し活動を行ったイノベーション委員会を正式に常設する。
- ②委員の構成は、運営会議に参加する者を除く全教職員の中から5名選出する。
- ③選出方法は、職員会議構成員の投票を持っておこなう。

重点事業は、年度途中であっても必要性を認める場合、随時追加するものとする。